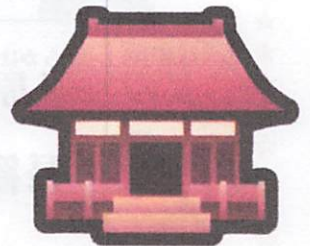


長篠・設楽原史跡探訪 A

ながしのしたらがはら たたか
長篠設楽原の戦いの【ゆかりの寺】を検証する。



長篠・設楽原 ここは強者どもが眠る場所

- ① **大通寺** だいつうじ 山号 だるまやま 達磨山大通寺 曹洞宗 新城市長篠字市場51番地

達磨山大通寺は、応承18年（1411）の創立と伝えられている。
長篠の戦いでは、馬場信房が布陣しました。馬場信房は、決戦回避を主張して果たせなかった同志の将 内藤昌豊 山県昌景 土屋昌次らと、明日の奮闘を誓い、今生の別れの泉の水を交わし合い決別の杯として、設楽原へ出陣して行きました。境内の裏手に盃井戸の泉が在ります。眼下に長篠城が望めます。

- ② **医王寺** いおうじ 山号 ちやうじやうざん 長篠山医王寺 曹洞宗 本尊薬師如来 新城市長篠字阿陀の前

開山当時1514年の長篠城主である菅沼元成、野田城初代城主の菅沼定則ら、【山家三方衆】の菅沼一門の厚い庇護を受けました。他にも永禄年間（1558年～70年）には今川氏真から茶湯料5貫文の寄進を受けています。天正元年（1572）には、長篠城主となった奥平貞昌から、水田1町歩の寄進を受けています。天正3年（1575）には、長篠合戦が勃発、武田勝頼の本陣が置かれました。山門の脇には【弥陀が池】と呼ばれる池が在り、勝頼の設楽原への出撃を諫めたアシガ、勘気にあつて切付けられ片葉になったという【片葉の葦】の伝説で知られる葦が生息しています。

- ③ **勝楽寺** しょうらくじ 山号 せいどうざん 聖堂山勝楽寺 出世観音 新城市川路字夜燈20番地

勝楽寺は、大本山永平寺を仰ぐ、開創八百年の曹洞宗の禅寺です。三世玄賀和尚は、徳川家康の遠州への進出を助け、長篠・設楽原の戦い後は、死者の霊を弔う大施餓鬼を行い、松明を焚いて供養に努めたと云います。その松明は、【火おんどり】として現在も受け継がれています。勝楽寺という寺号は、古くは【松楽寺】という表記でしたが、天正3年の長篠合戦で、武田家を打ち破った、織田信長と徳川家康が、当寺に立ち寄り戦勝の祝杯を上げ、【松】の一字を【勝】に改めたと云われています。庫裏に空道和尚が作成した【魚鼓】が吊られています。川路城主 設楽家の菩提寺であり 幕末の開国論者 岩瀬忠震の顕彰碑があります。

- ④ **大善寺** だいぜんじ 新城市西入船22番地 浄土宗

大善寺は、1532年に、田峯城主 菅沼定継が、片山に大善庵を建てたのが始まりとされています。長篠設楽原の合戦後、徳川家康の長女【亀姫】の発願で大善庵を現在地に移して、【大善寺】と改めたと云われています。境内には、「亀姫」の墓とされる五輪塔があります。亀姫の没後、四男松平忠明は、母の供養の為に五輪塔を大善寺に建立しました。

長篠・設楽原史跡探訪 B



ながしのしたらがはら たたか
長篠設楽原の戦いの【火縄銃】を検証する。



長篠・設楽原 ここは兵どもの夢の跡



【火縄銃の歴史】

- ① 天文12年(1543)ポルトガル人が、種子島の門倉岬に漂着し、2挺の火縄銃を領主種子島時堯が購入し、刀鍛冶の八板金兵衛清定に製造方法を研究させた。金兵衛は、苦心の末に【尾栓のネジ】の仕組みを解明し、1年で火縄銃の製造に成功しました。彼の娘【若狭】をポルトガル人に嫁がせた逸話。
- ② 天文13年(1544)には、種子島では、早くも数十挺の火縄銃が、生産されるように成りました。鉄砲の伝来から製作、生産開始のニュースは、商人を通じ各地に伝えられて行きました。近江国友村の鍛冶職人達が、刀剣の技術を活して、最新兵器たる鉄砲の製造に乗り出しました。
- ③ 天文22年(1553)織田信長が、斎藤道三と尾張の聖徳寺で会見した際には、朱槍隊の他、500挺の鉄砲隊を従えていた記録があります。
- ④ 大阪の堺 近江の国友 紀伊の根来 が当時、火縄銃の一大産地となりました。

⑤ 【火縄銃を使った主な戦争】

①川中島の戦い 天文22年(1553~永禄7年1564) 武田信玄 v s 上杉謙信 川中島で5回にわたって対陣した、特に永禄4年(1561)の戦闘が激しかった。武田軍が、火縄銃を装備している様子が【川中島合戦屏風図絵】に描かれています。

②長篠設楽原の戦い 天正3年(1575年5月21日) 織田信長と徳川家康 連合軍 v s 武田勝頼 “長篠城”奪還に、武田軍1万5000の兵で三河の長篠に攻め入り3万8000の連合軍と戦いました。3,000挺の“火縄銃”が組織的に使われた戦いとして、以後の築城にも戦術にも大きな影響があった戦いです。【長篠合戦屏風図絵】には、織田・徳川連合軍が、連吾川に沿って、馬防柵を3重に構築し、武田騎馬隊と、火縄銃で戦う鉄砲集団が描かれています。

③小牧・長久手の戦い 天正12年(1584) 徳川家康 v s 羽柴秀吉 織田信長没後、徳川家康が、信長次男、【信 雄】を助けて秀吉と戦うが、お互いの実力を認めて講和する。【小牧・長久手合戦屏風図絵】に火縄銃を撃つ兵士が描かれています。

④賤ヶ岳の戦い 天正11年(1583) 羽柴秀吉 v s 柴田勝家 本能寺の変後、秀吉と勝家が、信長の後継者となることを目指した戦い。【賤ヶ谷合戦屏風】に火縄銃を持った砦の兵士による防戦の様子が描かれています。

⑤関ヶ原の戦い 慶長5年(1600) 徳川家康 v s 石田三成 豊臣秀吉没後、豊臣政権の前途を憂いた、石田三成が家康と戦った戦争。双方で火縄銃が使われた様子が、【関ヶ原合戦屏風】に描かれています。鉄砲2万5,000挺が使用され、空前の銃撃戦が展開されました。